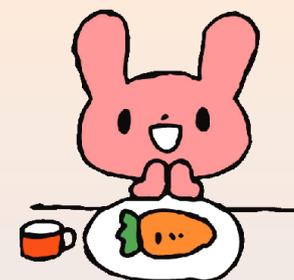


医療型障害者入所施設における 食育推進事業について ～食育通信事業を中心に～



発表者

拓桃医療療育センター

医療療育局 食事療養部

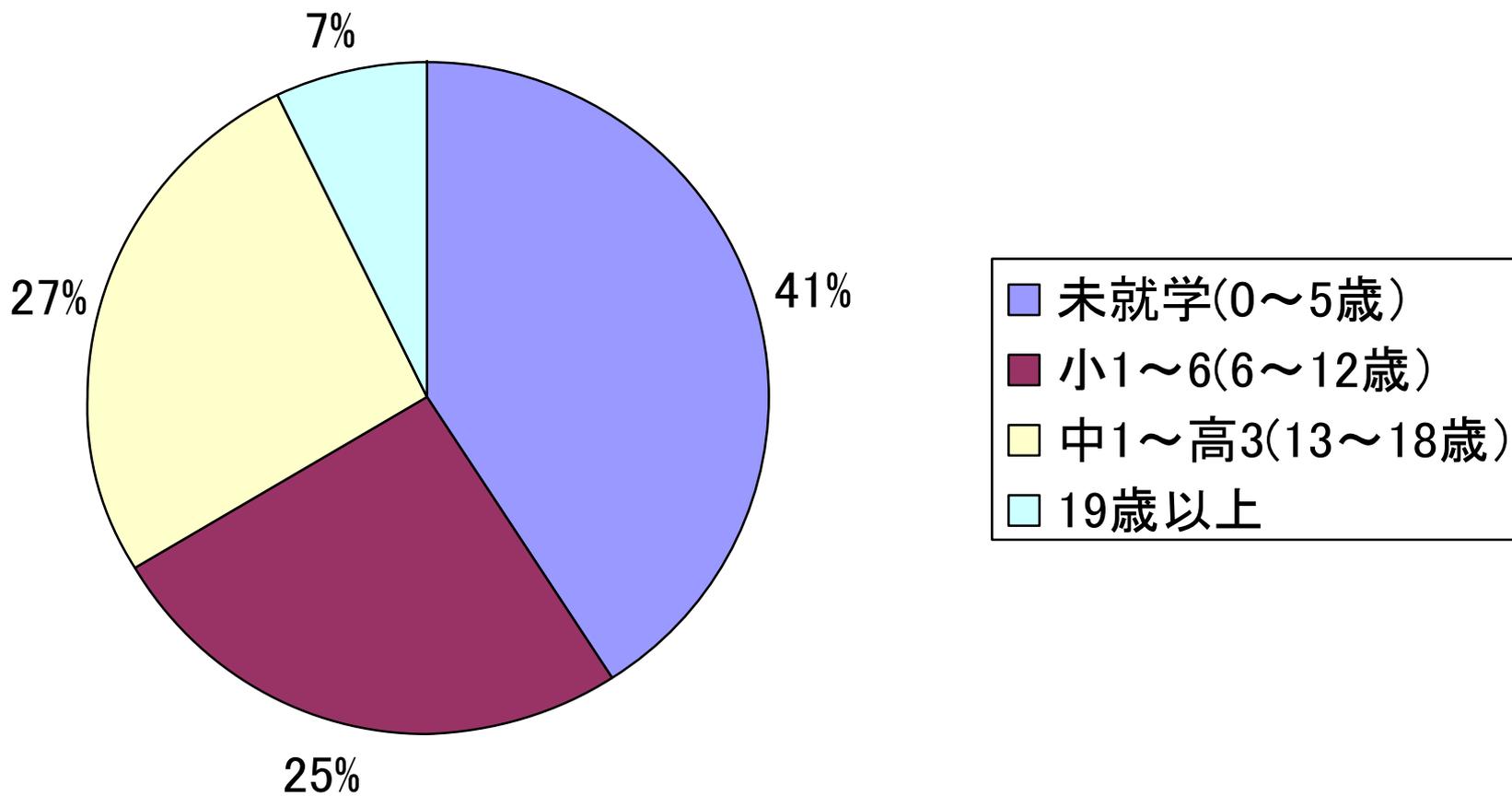
佐々木留美子 鹿内和佳子

食事提供状況

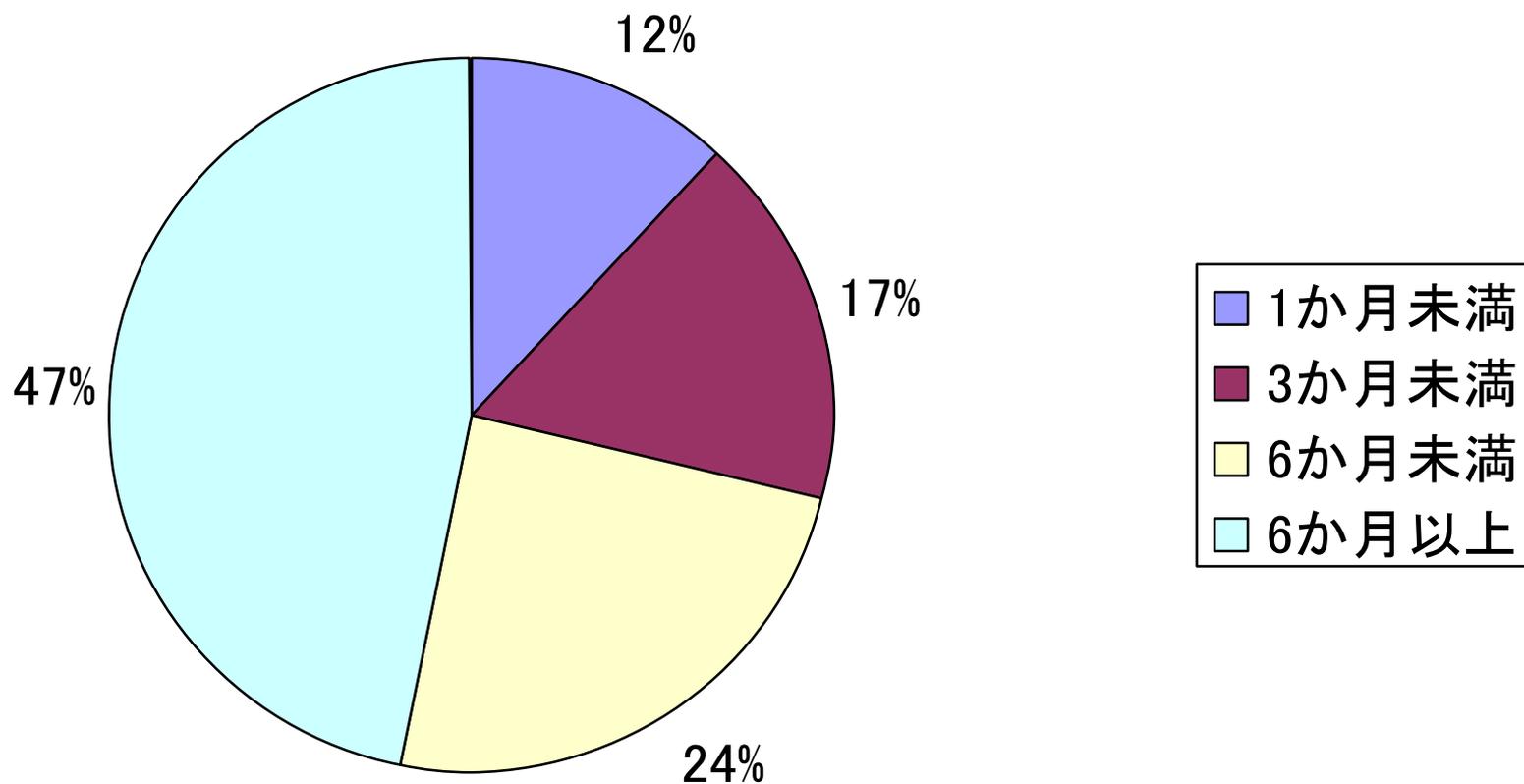
- 入院患者数(H25.1.15現在) 83名
- 1日平均食事提供数(H25.1.15現在) 78食
- 提供食種
 - 常食
 - 摂食機能に応じた食種(ペースト食等)
 - アレルギー対応食
 - 離乳食, ミルク
 - その他個別対応食等
 - 整形, 小児に特化した食種



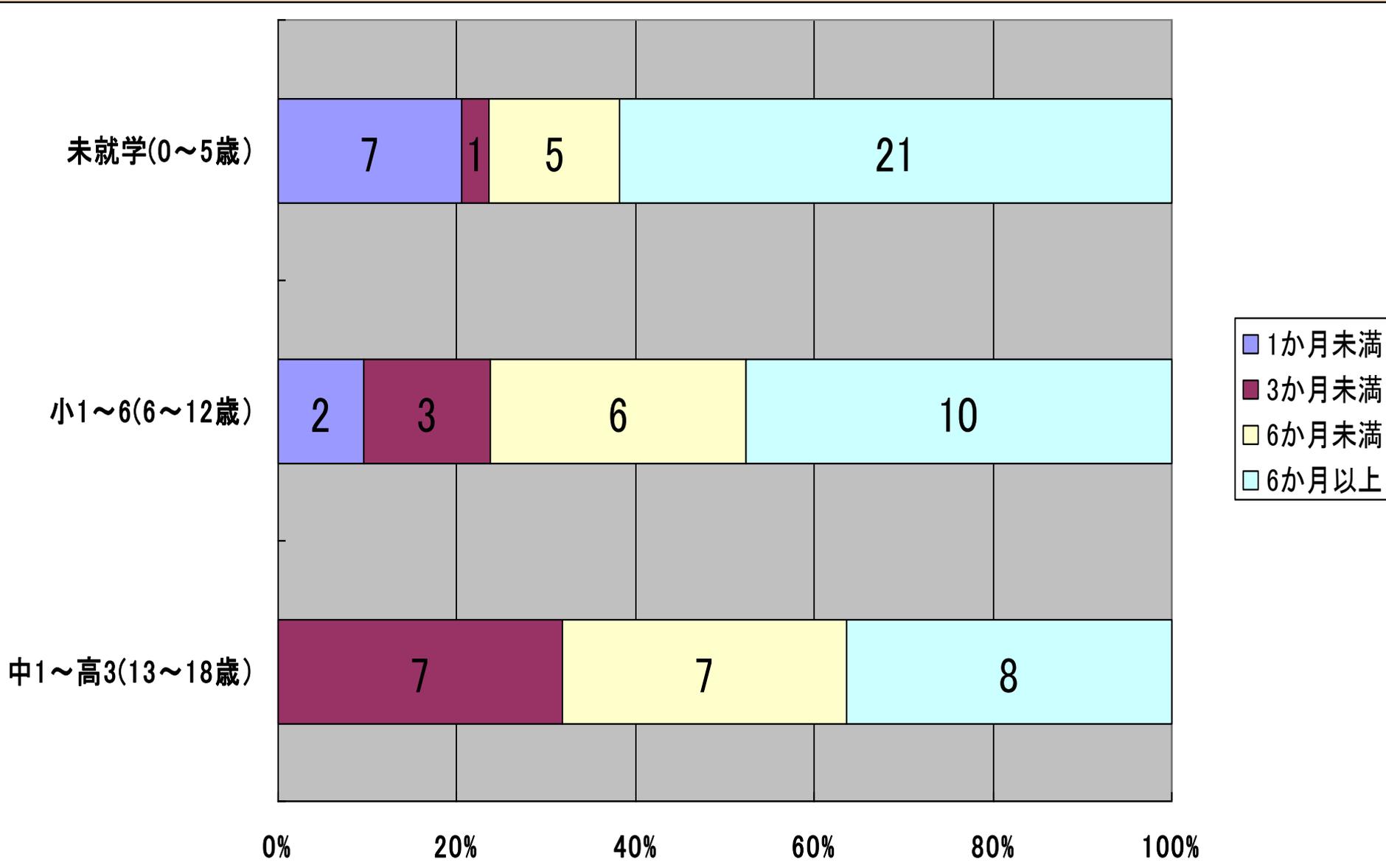
センター入院児年齢構成 (H25.1.15現在)



センター入院児入院期間 (H25.1.15現在)



センター入院児年齢区分別入院期間 (H25.1.15現在)



センターでの食事の役割

治療や成長をサポートする

楽しみ

学校給食

家庭の雰囲気

食育

コミュニケーション



センターでの食事の役割

成長や治療をサポートする

学校給食

食育

コミュニケーション

楽しみ

家庭の雰囲気



センターでの食に関する課題

- 好き嫌い(偏食)
嗜好によるもの, 障害によるもの
- 家庭での食事や取り組みに差がある など



- 入院児の食に関する課題を保護者に十分伝えられておらず, 課題を共有できていない
- 食に関する課題を, 職員間でも十分共有できていない

食事療養部における従来の取り組み

- 昼食, おやつ時病棟巡回
- 集団栄養教育
- 個別栄養指導

入院児に対して
啓発する機会

個別

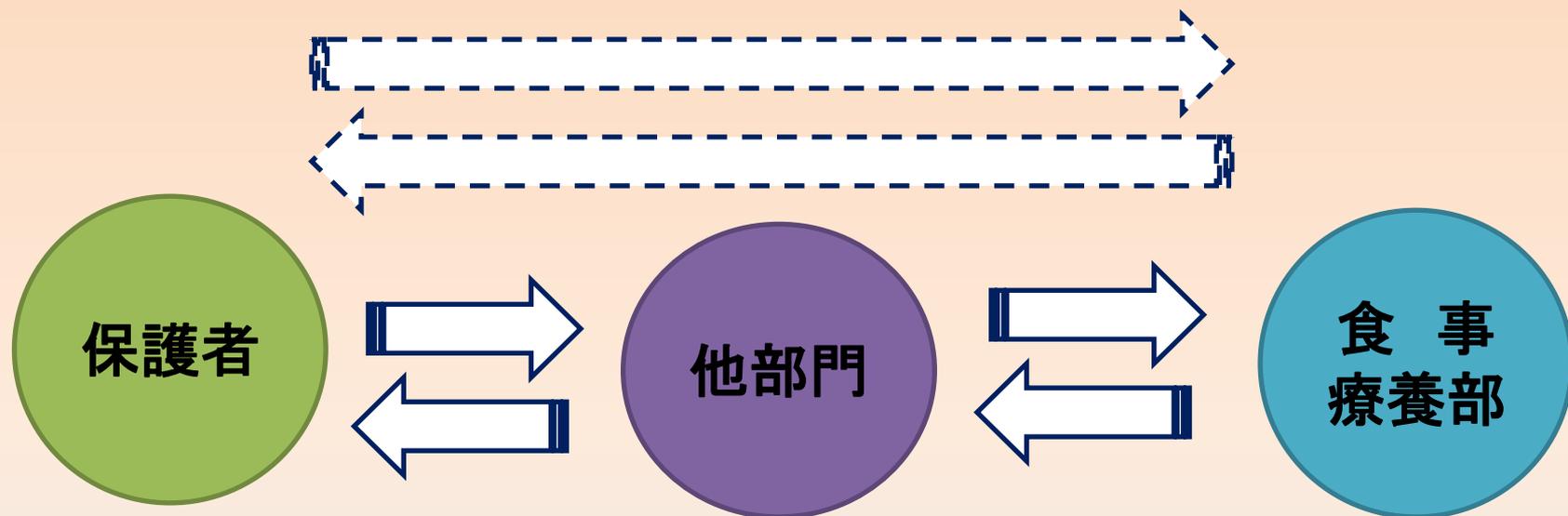
集団

保護者に対して
啓発する機会

個別

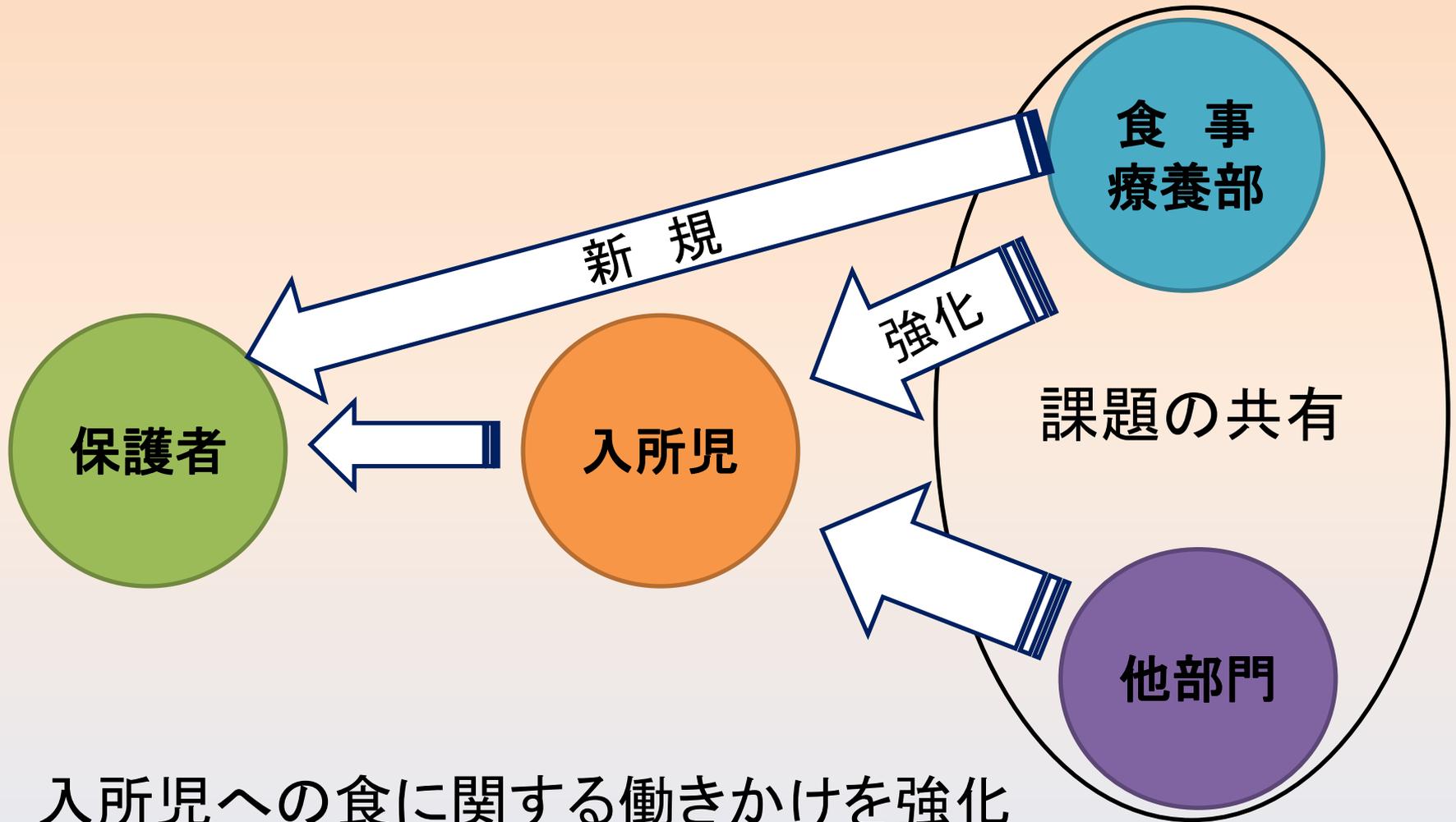
食に関して何らかの
課題が明らかな場合
が多かった

保護者との関わりが希薄だった



- 保護者は週末外泊開始時来院，外泊終了時帰院
- 来院，帰院はバラバラ。
- 県内だけでなく，東北一円からの入院＝多忙
- 個別ケース(食に関して何らかの課題がある等明らか
な場合)へのアプローチはしやすいが，予防的な内容で
啓発する機会を得ることは難しい。

今年度の取り組みの方向性①



- 入所児への食に関する働きかけを強化
- 新たに保護者への働きかけを行う

今年度の取り組みの方向性②

◆ ジュニア期

- 乳幼児期(0～5歳)
食習慣の基礎づくり

入院期間が長期

- 学童期(6～12歳)

継続的な啓発が可能

望ましい食習慣の定着

- 思春期(13～18歳)

自立に向けた食生活の基礎づくり

第2期宮城県食育推進プラン(H23.7～)

重点対象

当センター入所者は、ほぼジュニア期に該当

【 今年度の取り組み 】

新

- 「食事療養年間計画」により啓発テーマを事前に設定

新

→他部門と連携した食育を実施

- 年間計画のテーマに沿った食育通信2種（入院児対象，保護者対象）を定期発行
- 重点対象である乳幼児（0～5歳）を中心として，学童期，思春期に対してもテーマに沿った栄養教育を実施。

※乳幼児対象の栄養教育内容については，
実施後保護者に通信増刊号としてお知らせ

積極的な情報発信

新

食事療養年間計画(一部抜粋)

月	テーマ	定期的な栄養・食育情報の提供		食への関心の増加		
		食育通信	栄養教育	行事食	セレクト・リクエスト	その他
10月	<ul style="list-style-type: none"> 野菜を食べよう 旬や季節の食事について 好き嫌いについて 			ハロウィン		保育遠足
11月		通信③ 号外②	幼児対象	郷土料理		文化祭 月のつどい
12月		冬増刊号	学童対象	クリスマス 冬至 大晦日		クリスマス お楽しみ会

新

食育通信(2種)の発行

入院児向け

Vol.3 (H24.11)

たくとうりょうりょういくセンター
しょくいくつうしん

たべさいん



たべさいん=ばんだいばんで「めしあがれ」

「あれ?ぼくのおぜん?」
「わたしのおぜん?」
とおもったこはいませんか?
「やさいのこしちやお」
なんてこはいないかな?



やさいたべてねって
みんないうけど、な
んでたべたはうがい
いの??



とくしゅう

きゅうしょくのじかんから

きょうのやさいのおかずはたべましたか?
「やさいたべたよ!」とおしえてくれるおともだち
がいっぱいいて、とてもうれしいです。
やさいがにがてなおともだちは、まず「ひとくち」
からがんばってたべてみましょう。
センターにいるあいだに、「好きなたべ
もの」がどんどんふえたらいいですね。



ごちそうさまでした

やさいたべたかな?

からだのちょうしをととのえる
「ビタミン」がはいっています。
かぜにまけたくないおともだち
にはとくにおススメだよ!



やさいが
もってる
ひみつの
ちから
その②

おなかのちょうしをよくする
「しょくもつせんい」がはいっていま
す。すっきりおトイレしたいおともだ
ちにはとくにおススメだよ!

新

食育通信(2種)の発行

保護者向け

Vol.3 (H24.11)

拓桃医療療育センター食育通信

たべさいん



たべさいん=畑舎で「おし上げ」

特集

野菜食べていますか？

お子さん、御家族のみなさんはお野菜好きですか？
どれくらい召し上がっていますか？

平成22年度に実施した県民・健康栄養調査の結果によると、成人1日あたりの野菜摂取量は、男性317g、女性299gでした。野菜の目標摂取量は1日350gとされていますので、宮城県民は不足気味なようです。

食習慣や食嗜好は、子どものころから形成されます。苦手な子が多い野菜ですが、今はもちろん大人になってからの生活習慣病や肥満予防のためにも、少しずつでも食べられるようがんばりたいですね。



なぜ野菜を食べた方が良いの？

野菜には食物繊維やカリウム、ビタミン類が含まれています。

食物繊維には血液中のコレステロール降下作用が、カリウムにはナトリウム(食塩)の排出を促す作用があります。

お子さんはもちろん、御家族のみなさんも野菜をモリモリとりたいですね！

宮城県食育推進プランでは「1日当たりの野菜摂取量の増加」を推進しています☆

給食のじかんから

残食の状況を見ると、野菜類が苦手なお子さんが多いようです。給食の時間におじゃますると、がんばって食べている様子も見られ、「野菜食べたよ！」とニコニコ顔で教えてくれます。

センターでは、「ちょっとずつでも好き

☆宮城県食育推進プランでは「1日当たりの野菜摂取量の増加」を推進しています☆

実施しての変化

- 入院児が食について頑張っていること(残さず食べたよ・野菜食べたよ等)を, 管理栄養士や調理師に積極的に伝えてくるようになった。
- 保護者からの料理レシピ問い合わせや保護者会会報への原稿依頼(食育について)等, 「食への関心向上」がみられた。
- 課題・情報共有を図ることで, 他部門との連携がスムーズになった。

今年度取り組みの評価

◇食育通信・食事に関するアンケート

【目的】 食育通信の評価及び食に関しての家庭での取り組み状況把握

【対象】 入院児の保護者

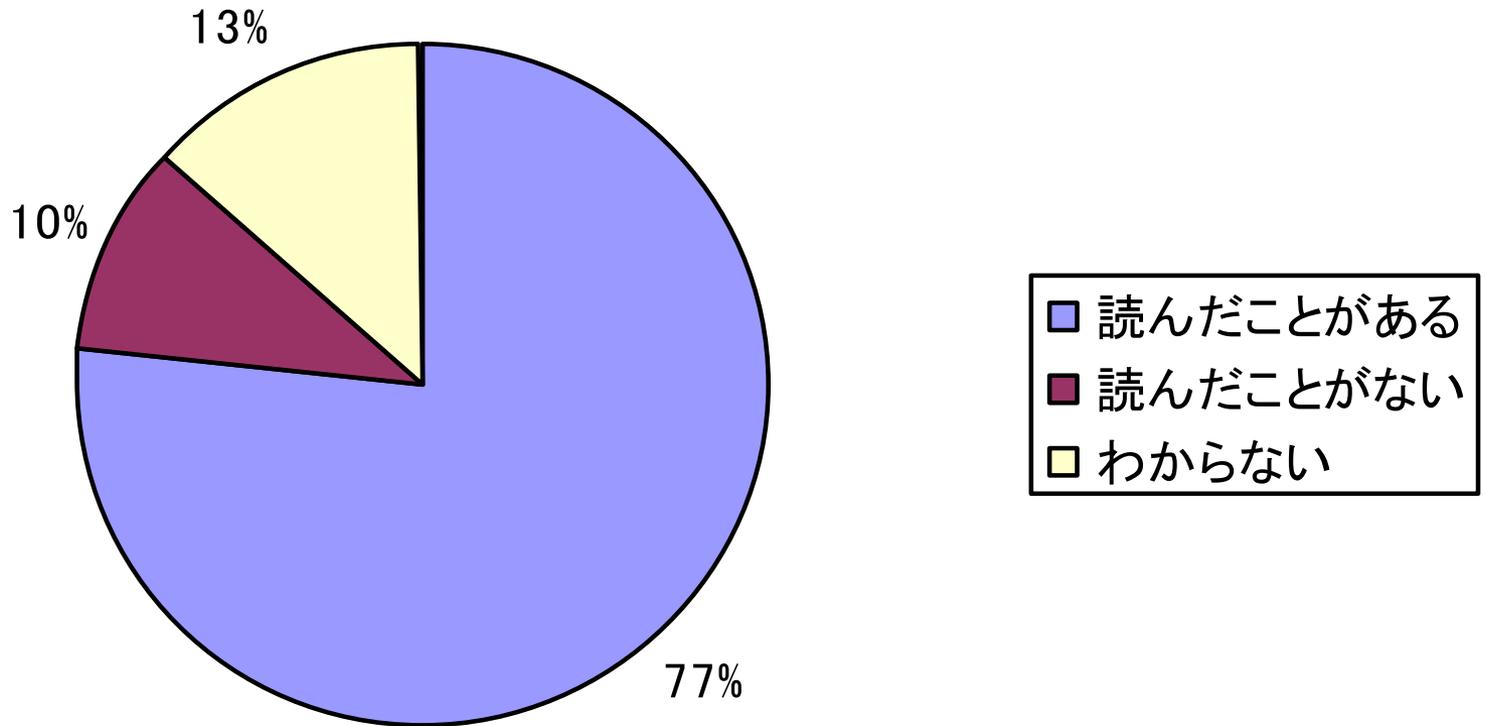
【実施期間】 平成24年12月21日(金)から25日(火)

【方法】 配布:週末外泊時及び面会時,病棟を通じて配布

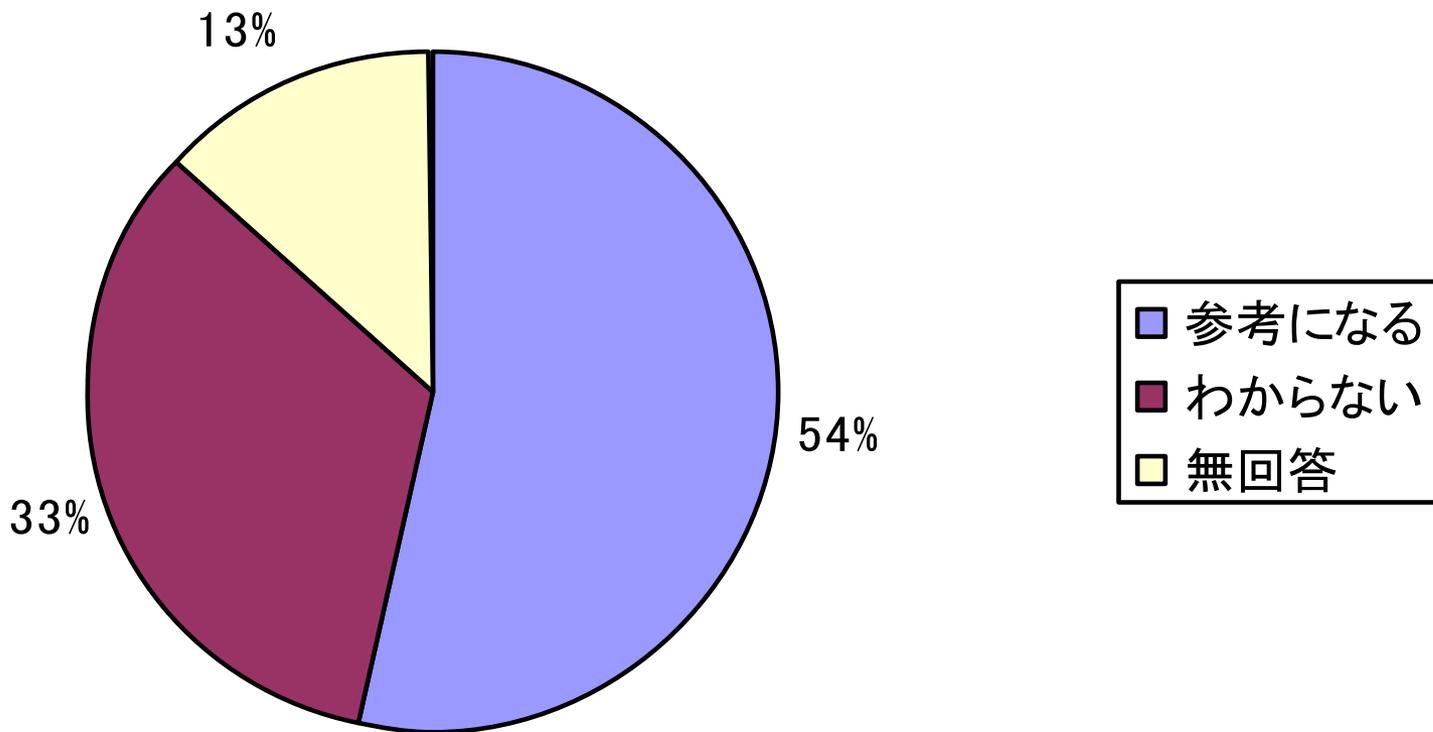
回収:病棟毎に回収箱を設置し回収

【回収率】 46.4%(配布数63枚,回収数29枚)

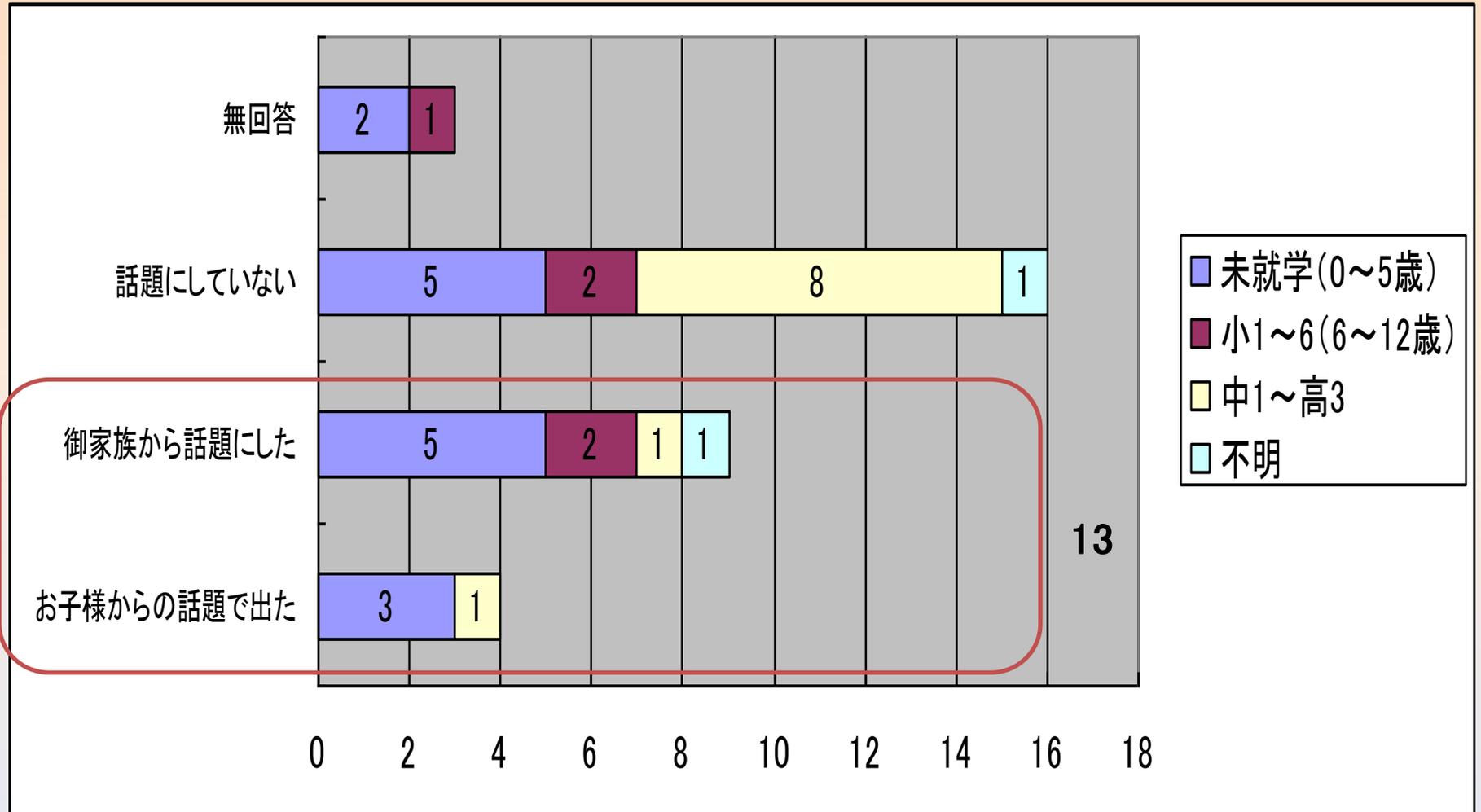
食育通信を読んだことがあるか



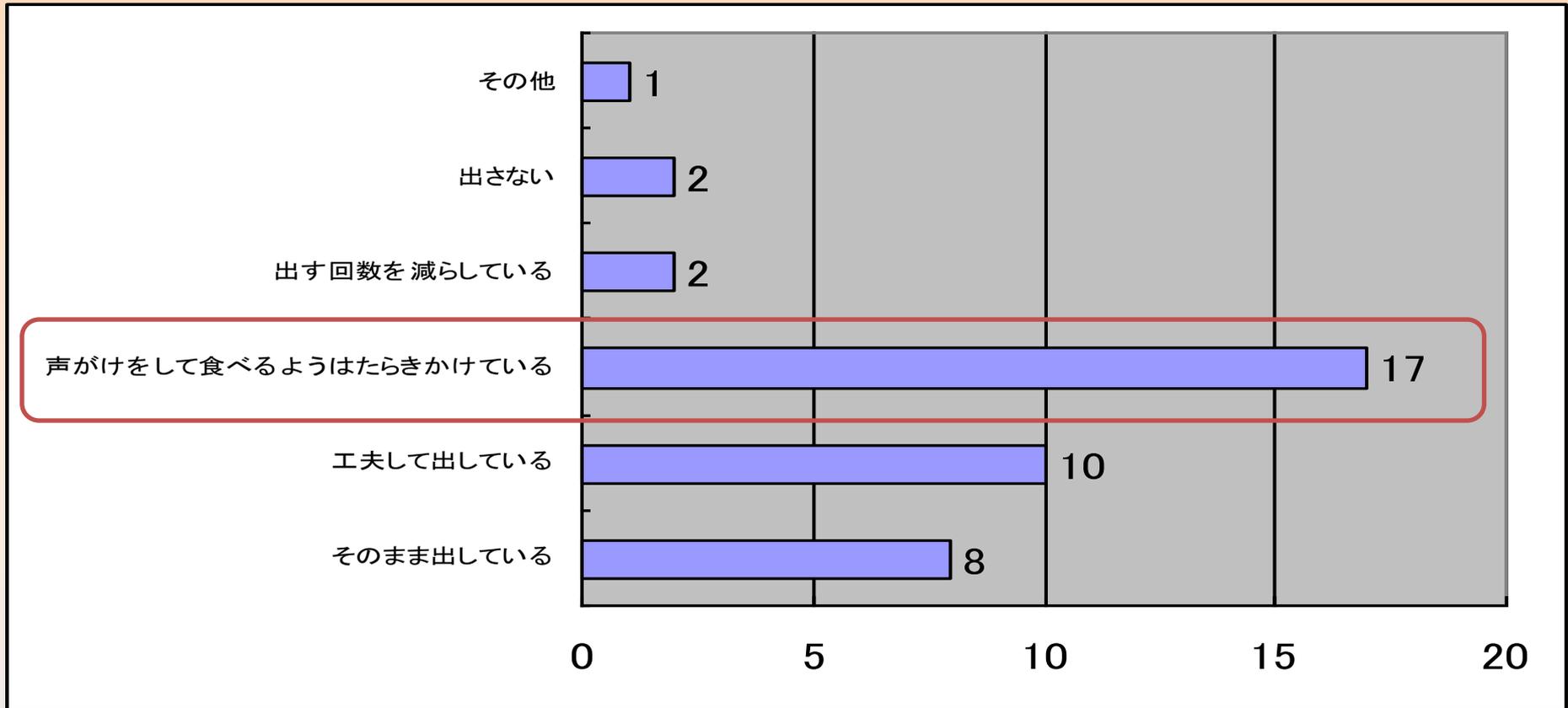
食育通信の内容について



食育通信を通して、家族で食や栄養について話す機会はあるか(複数回答)



家庭における子が嫌いな食べ物への対応について (複数回答)



食育通信等提供による
声かけのテーマ提供



家庭での取り組み
を促す可能性

食育通信を通じて子に伝えてほしいこと

野菜の大切さ

食の必要性
食べる事の
大切さ

地場産品
伝統料理

ジュースの
砂糖の量

食育通信で取り上げてほしい話題

野菜を食べやす
くする方法

嫌いな食べ物に対しての
工夫の仕方, 調理方法等

子どもに
人気のレシピ

保護者の考える「子の食事に関する課題」

好き嫌い

食事時のマナー

今後に向けて

保護者の考える「子の食に関する課題」を共有し、センター全体として取り組んでいく必要がある

継続的な情報発信による保護者との双方向コミュニケーション推進

調理担当者が入院児と直接関わる機会を持つ等、新たなアプローチでの食の関心の向上